

Why Fukushima?

福島には、新しい産業を創出し発展させる条件が高いレベルで揃っています。
そしてこれらの「地域的価値」は、創出・発展をめざす産業全体で活用が可能なものです。
事業者が持続可能な経営を実現していくには、
あらゆる資本を経営資源として活用していくことが不可欠ですが、
ドローン産業の創出・発展を推進するために、
福島が提供できる「地域的価値」は、以下の通り資本別に整理できます。

	財務資本	スタートアップを後押しする特別な補助金等の支援制度
	製造資本	複数の実証フィールド、インキュベーション施設の整備
	知的資本	研究拠点や実証実施、企業進出による専門家の集結
	人的資本	関連事業者の県内流入による関係人口の増加
	社会・関係資本	国家プロジェクトに基づく公的機関の支援、事業者間連携
	自然資本	豊かな自然環境と地形の多様性

※「IIRC: 国際統合報告フレームワーク」による整理に基づく

「FUKUSHIMA DRONE」は、これらの資本を活用して成長する事業者の紹介とともに、
全国のステークホルダーに対して、福島への事業進出や、
事業者間連携、新たなビジネスモデルについて提案します。



詳細は「FUKUSHIMA DRONE 2022」
ガイドブックをご覧ください



東日本大震災から11年。
福島県では「福島イノベーション・コースト構想」を背景に、各種補助金等の支援制度
の充実や、「福島ロボットテストフィールド」をはじめとした施設の運用等により、地元
企業のビジネス領域の拡大や他地域からの企業進出が促進され、次世代の産業創出
が進んでいます。
なかでもドローン産業は、急速に進む技術開発や全国各地で実施される技術実証等
により、社会実装に向けた機運とともに成長産業としての市場の拡大が期待され、福
島の地でも多様な企業がドローンビジネスに参入しています。

福島イノベーション・コースト構想

東日本大震災及び原子力災害によって失われた
浜通り地域等の産業を回復するため、
当該地域の新たな産業基盤の構築をめざす国家プロジェクト

Minamisoma 5.0

ロボット産業により人と地域とロボットがつながることで
社会課題を解決する“ロボットイノベーション”の実現をゴールとする
福島県南相馬市の取り組み

福島ロボットテストフィールド

「福島イノベーション・コースト構想」に基づき整備された、
陸・海・空のフィールドロボットの一大開発実証拠点

補助金等支援制度の充実

福島県への事業・研究拠点の設置、新たな分野への事業領域拡大、
ロボット・ドローンの技術開発を推進する複数かつ多様な支援制度

FUKUSHIMA ROBOT TEST FIELD

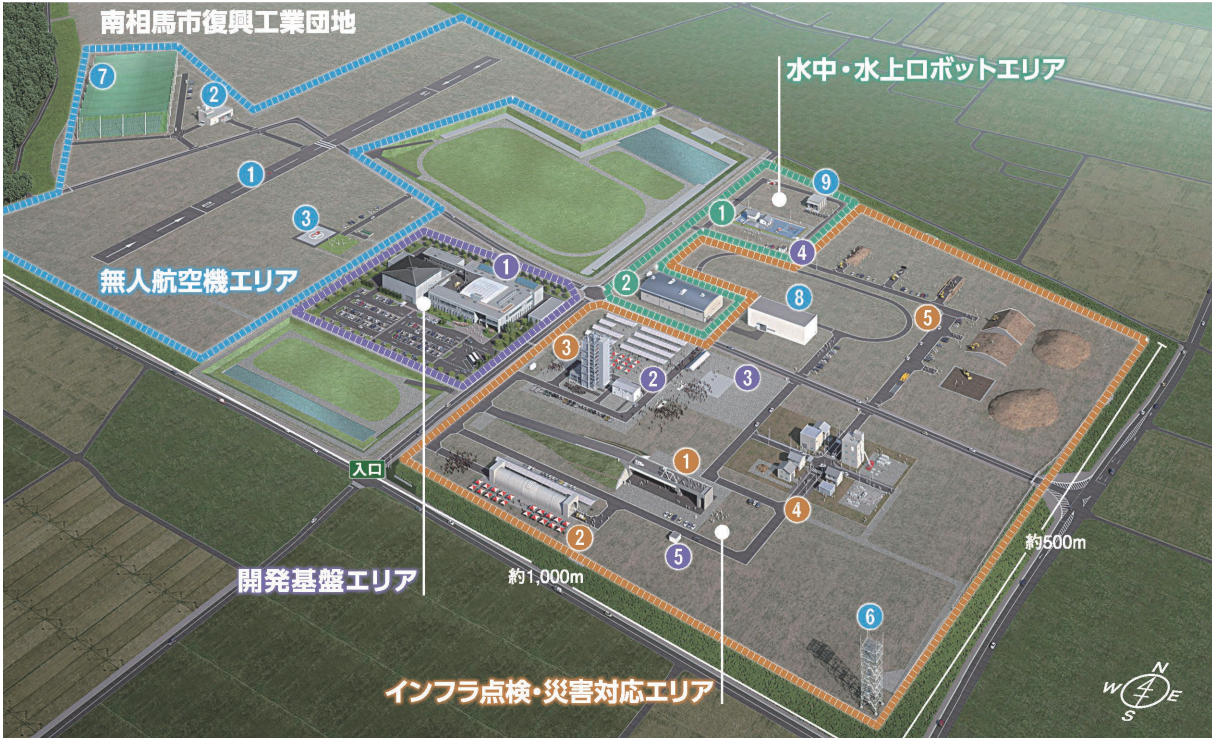
福島イノベーション・コースト構想

福島ロボットテストフィールド

「福島ロボットテストフィールド」公式アカウント



福島イノベーション・コースト構想に基づき整備された「福島ロボットテストフィールド (RTF)」は陸・海・空のフィールドロボットの一大開発実証拠点です。インフラや災害現場など実際の使用環境を再現しており、ロボットの性能評価や操縦訓練等ができる世界に類を見ない施設です。本拠点は、南相馬市復興工業団地内の東西約1,000m、南北約500mの敷地内に「無人航空機エリア」、「インフラ点検・災害対応エリア」、「水中・水上ロボットエリア」、「開発基盤エリア」を設けるとともに、浪江町・棚塩産業団地内に長距離飛行試験のための滑走路を整備しています。



- ① 研究棟 ② 試験準備棟 ③ 屋外試験準備場 ④ 簡易計測室A ⑤ 簡易計測室B
① 南相馬滑走路 ② 滑走路附属格納庫 ③ ヘリポート ④ 浪江滑走路 ⑤ 滑走路附属格納庫 ⑥ 通信塔・広域飛行区域 ⑦ 緩衝ネット付飛行場 ⑧ 風洞棟 ⑨ 連続稼働耐久試験棟
① 試験用橋梁 ② 試験用トンネル ③ 試験用プラント ④ 市街地フィールド ⑤ 瓦礫・土砂崩落フィールド
① 水没市街地フィールド ② 屋内水槽試験棟



研究室 22室(2022/11/1現在入居 17室)
環境試験機器、機械加工機器、分析機器 等
『ハイテックプラザ南相馬技術支援センター』併設
地域ものづくり企業を支援(最新の加工・分析機器設置)
『南相馬市産業創造センター』:ロボットテストフィールドの1.7km西に
設置工場4区画、事務所12区画

入居者名	本社	研究開発対象
(株)プロドローン	愛知県	大型ドローン
(株)デンソー	愛知県	橋梁点検ドローン
(国研)海上・港湾・航空技術研究所	東京都	航空機位置探知システム
(株)ロボデックス	神奈川県	水素燃料電池ドローン
會澤高圧コンクリート(株)	北海道	インフラ点検用ドローン
(株)先端力学シミュレーション研究所	東京都	ドローン用部品
ALSOK福島(株)	福島県	警備用ドローン
東京大学	東京都	先進的航空機の研究
AZUL Energy(株)	宮城県	ドローン用軽量電池
(株)東北ドローン	宮城県	ドローン運用ユースケース
テトラ・アビエーション(株)	東京都	空飛ぶクルマ
東北大学 未来科学技術共同研究センター	宮城県	自動走行
会津大学 復興支援センター	福島県	災害対応ロボット
(一社)ふくしま総合災害対応訓練機構	福島県	総合災害対応訓練、災害対応ロボット実用化
(株)メルティン/MMI	東京都	アバターロボット
(株)リビングロボット	福島県	パートナーロボット
(株)クフウシヤ	神奈川県	業務用ドライ掃除ロボット

ロボット研究開発

85件(2016年度～)

実証試験誘致件数

912件(2015年8月～2022年10月)

浜通り地域等へのロボ関連新規進出

70社(東日本大震災以降)

ロボットテストフィールド来訪者数

78,400名(2018年7月～2022年10月)

FUKUSHIMA DRONE

From: Organization for Fukushima Soso region Revitalization
Subject: Consultation of the Cooperation
Date: December 6, 2022 10:03:11 AM
To: Oita Drone Platform XROSS

おおいたドローンプラットフォームXROSS さま

1年前、福島県内のドローン事業者のビジネス展開を支援するために、私たちは「FUKUSHIMA DRONE」プロジェクトを始動しました。

他地域の取組事例を参考にするなかで、貴団体の運営する「ドローンプラットフォーム」を初めて拝見した時の衝撃は忘れられません。

大分県内の事業者をとりまとめた上での、サービスカテゴリ、対応エリア、価格設定に基づく、ビジネスマッチング機能を備えており、ドローンビジネスを地域全体で実装する先行事例を目の当たりにしました。

福島県には多様な実証フィールドを整備するとともに、様々な特長を有する複数のドローン事業者が活動していますが、ぜひ大分県との広域連携により、ドローン業界全体の活性化に繋がる取り組みを、一緒に推進していけたらと考えています。

福島相双復興推進機構
広域実証フィールド課長

政本 隆史

公益社団法人 福島相双復興推進機構
産業創出グループ

F960-8031 福島県福島市栄町6-6 ユニックスビル4階
TEL: 024-502-1115 (代表)
E-mail: kanmin_seizou@fsr.or.jp
URL: www.fsrt.jp